

<英語>

実践的コミュニケーション能力を高めるリスニング指導の工夫

今帰仁村立湧川中学校 新城 直子

I テーマ設定の理由

新学習指導要領における中学校の外国語教育は、「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う。」ことを目標としている。今回の改訂で中学校段階では、音声によるコミュニケーション能力の育成が更に重視されている。英語を聞いて理解する力は「話すこと」の基礎となり、「読むこと」「書くこと」の土台になる。このことから「聞くこと」の指導を初期の段階で重点的にを行い、その後も継続していく必要があると考える。

これまで、「聞くこと」の指導は、教科書の本文をテープ、または教師が読んで聞かせ、それを書き取らせたり、内容についての質問に答えさせたりする程度であった。生徒はALITに話しかけられると、知っているはずの英語が聞き取れず、返事もできない状況であった。また、教科書以外のある程度の長さの文章を聞かせたり、映画を視聴させたりした時、単語は聞き取れても、概要を理解することが困難な生徒も多かった。これは、聞き取るために必要な知識や技能を習得させる基本的な指導が不十分だったことによる。

英語を実際に使用する場面において、話す場合は、内容・速度・表現などを話し手が操作することができる。しかし、聞く場合には相手の操作するものに対応しなければならないことから、「聞くこと」の方が困難を伴うことが多いといえる。しかし、「聞くこと」ができなければ、コミュニケーションは成立しにくい。そこで、生徒の「聞く力」を伸ばすための指導を工夫すれば、実践的コミュニケーション能力を高められると考え、本テーマを設定した。

<研究仮説>

英語の音声をとらえ、話し手の意向や必要な情報を能動的に聞く指導を工夫すれば、生徒はより英語を聞くことができるようになり、実践的コミュニケーション能力を高めることができるであろう。

II 研究内容

1 「実践的コミュニケーション能力」について

(1) 「実践的コミュニケーション能力」とは

『新学習指導要領解説－外国語編－』によれば「実践的コミュニケーション能力」とは「単に外国語の文法規則や語彙などについての知識をもっているというだけではなく、実際のコミュニケーションを目的として外国語を運用することができる能力」とある。つまり、外国語を使って、「情報や相手の意向」「自分の考え」といった「意味内容」を伝え合う能力といえる。

(2) 実践的コミュニケーション能力の要素

Canale and Swain (1980) はコミュニケーション能力の構成要素として次の4つをあげている。

①文法的能力(Grammatical competence)

語彙や文型・文法事項、音声などについての知識を語句や文にする操作能力。

②社会言語学的能力(Sociolinguistic competence)

ある特定の文脈や状況に相応しい話題を選択し、その話題を適切な言い方で表現できる能力。

③談話的能力(Discourse competence)

段落やそれ以上の単位の文章を、意味のある談話にするために文や発話を連続させる能力。

④方略的能力(Strategic competence)

英語力の不足によって起こるコミュニケーションの問題を、言い換えたり質問したりして解決する能力。

実践的コミュニケーション能力を高めるには、これらを総合的に伸ばす指導の充実が必要である。コミュニケーションを支えるリスニング活動においても、これらの要素を抜きに考えることはできない。

2 リスニングについて

(1) 能動的活動としてのリスニング

リスニングは従来受身的な技能と考えられている。実際には発話の文字通りの意味に加え、場面や状況、話し手の様子などから談話の流れや話し手の意図を予測し、それが正しいかどうか判断しながら、自分の聞いたことを理解しようとする活動である。そのため

に、語彙や文法事項、音声などについての知識だけでなく、社会的、文化的な様々な知識が必要であり、それらを総合的に活用しなければならない。最近では、リスニングが情報の取捨選択をする上で、価値判断を伴う能動的で生産的な活動であることが強調されてきている。

(2) リスニングの重要性

リスニングを考える時、よく例に出されるものに冰山現象がある(図1 斎藤,1998)。冰山は海面上が全体の7分の1に過ぎず、7分の6は海面下にあると言われている。これをスピーキングとリスニングの関係に

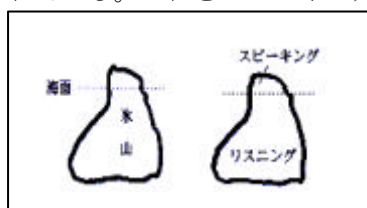


図1

も見たてることができ。リスニングが大きくなってくるとスピーキングも伸びてくるのである。ここにリスニングの重

要性がある。

竹蓋幸生(1997)は、「聞くことの学習から他の技能への正の転移が最も大きい、つまり、リスニング力が他の技能の向上につながる。」と述べている。聞くことがいかに他技能に効果をもたらすか、次の表から見ることができる。

表1 4技能間における学習の転移の可能性

×読む→聞く(Mueller,1980 他)
×話す→聞く(Pimsleur,1971 他)
×書く→聞く(Wada,1992)
○聞く→読む(Nord,1975 他)
○聞く→話す(Asher,1972 他)
○聞く→書く(竹蓋他,1993)

(○:転移が大であることを示す ×:転移なし又は小)

3 リスニングが困難な理由

日本の生徒はリスニングが苦手だと言われている。なぜリスニングが困難であるか、これにはいくつかの理由があると考えられる。

(1) 文字中心の英語教育

1か月研修を受けたアメリカンスクールでは、参観したどの授業も、教師が板書をするのは少なく、話し聞かせることで生徒の理解を深める指導が中心であった。小学校段階から必要なことを選択して聞き、自分が持っている知識と結びつけて意味内容を理解する訓練がなされている。

それに対し、日本では、文字を媒体にして教えることに重点が置かれる傾向がある。英語教育でも同様である。文法と訳読が中心で、すぐに消える音声に対応して意味内容をとらえさせる、つまり聞いて理解させ

る指導が十分になされてこなかった。

(2) 音声の知覚が困難

① 音素

「日本人の脳は日本語を音パターンとして認識させる脳細胞回路を言語中枢に形成しており、50音(常に5つの母音で終わる音節で構成される言葉)のみを通過させるフィルターを通すために、聞こえてくる言葉はこの50音のどれかであると思い込んでしまっている。」(斎藤輝,1999)。そのために、日本語にない英語の音そのものが聞き取れないのである。

② 音変化

英語には音変化があり、単独で発音した単語と文中の単語ではかなり違って聞こえる場合があることがあげられる。これは前後の音やリズム、スピードの影響によるもので、連結、同化、弱化などの音変化がある。日本語と英語の音の違いや英語の音変化についての基礎知識をもち、更に実際の音を聞いて慣れさせておく必要がある。

③ リズム

日本語の平板な音節的リズム(syllable timed rhythm)と違って、英語は強勢のある音節が比較的均等な時間的感覚で繰り返される強勢的リズム(stressed timed rhythm)である。一般に強勢を受けやすい語は名詞、動詞、副詞、形容詞などの内容語(content word)である。一方弱音節になるのは、接続詞、冠詞、関係詞、代名詞、助動詞などの機能語(function word)である。この弱音節が聞き取りにくい。

(3) ボトムアップ的な音声処理

リスニングにおいて、音声を聞き分け、単語を認識し文の意味を一つずつ積み上げて、理解するのがBottom up方式である。それに対してTop down方式とは場面や文脈から大まかな予測を立て、全体として意味をつかんでいくやり方である。

Richards(1993)は、「日本人の学習者は聞き取りの困難に直面した時、聞こえてくる個々の単語を知ろうとしたり、それを書き取って理解しようとしたりして、ボトムアップ的処理に頼りすぎている。」と述べている。音声は当然ながらスピードがあり、聞き逃すと文字のように読み返したりすることはできず、ボトムアップ的処理だけでは、音声の聞き取りは間に合わない。必要な部分を選択的に聞き、言語内、言語外のあらゆる知識を使って予測したり、能動的に意味を構築したりするトップダウンの方式を取り入れ、バランスの取れたリスニング指導を行う必要がある。

4 リスニングに必要な技能の指導

(1) 英語の音声指導

① 英語の音素

英語は母音が大きく分けて8つ、長音や二重母音を含めると20もある。子音は更に種類が多く複雑である。英語の音そのものを聞き取るためには、何度も聞いてその音に慣れる必要がある。始めに英語と日本語の音に違いがあることを認識させることが重要である。そこで、アルファベットを用いて次のような指導が考えられる。

ア アルファベットを5つのグループに分け、共通点を探させる。

イ グループごとに、発音練習をさせる。この練習で文字とそれが表す音素が理解でき、英語の発音の基礎が形成される。

Group 1: B C D G P T V Z

(終わりの「イー」の音を除いた音が文字の持つ音)

Group 2: F L M N S X

(はじめの「エ」の音を除いた音が文字の持つ音)

Group 3: A E I O U

(母音)

Group 4: J K

(「エイ」の音を除いた音が文字の持つ音)

Group 5: H Q R Y W

(例外の集まり)

② 語と語の連結による音変化

音変化にはいくつかの種類がある。基本的なものを聞かせ慣れさせる。身近な語を使ってクイズ形式にして聞かせると、生徒の意識を集中させやすい。

・ 2語が連結する場合

An egg. / Pen and paper. / Take it easy.

・ 2語が連結する時、一部の音が脱落する場合

What time is it now? / I don't know.

・ 2語が連結する時、二つの音が影響し合う場合

Would you tell me the way to the library?

③ 語のリズム

英語のリズムに慣れさせるには、英語の歌やチャンツ、早口言葉などが効果的である。また、英語を聞かせながら手を叩き、強勢のある箇所特に強く手をたたくと、生徒はリズムを意識しやすくなる。

句や文の強勢は内容語につくことが多い。強勢のある語句を意識しながら聞き、それらをつなぎ合わせて意味内容を捉えるスキニングの指導が必要である。また、長い文は意味のまとまりで区切られるので、区切りに注意すると内容理解に役立つことも指導する。

(2) 正しく理解するための聞き返し表現

コミュニケーションは常にスムーズにいくとは限らない。わからないところをそのままにせず、何らかの意思表示をして活動を継続することや、適切な質問をして意味を理解しようとする必要がある。これがコミュニケーションへの積極的な態度にも結び

つく。必要と考えられる表現を一覧にして、クラスルームイングリッシュとして、あるいは言語活動の中で活用させる。

① 聞き返す時

Pardon? / Excuse me?

Please say it again. / Please say it slowly.

Would you please say that again?

② 意思表示をする時

Just a moment, please. / I am thinking.

I don't understand the question.

I don't know the answer. / I think...

③ 内容を理解するために質問する時

What does _____ mean?

What is _____ in English (Japanese)?

How do you pronounce this word?

5 コミュニケーションとしてのリスニング指導

(1) Top down方式とBottom up方式の併用

リスニングの効果的な指導として、二つの併用方式を取り入れた授業を考えていく。具体的に次のような展開が考えられる。

① Motivation

② Review listening

前時の内容を教師の読みかテープで聞かせ、内容についてQ&Aを行う。

③ Listening Input

未習の本文を繰り返し聞かせ、生徒に聞き取れたことを発表させる。単語穴埋め式のプリントを配り、聞き取った語を記入させる。

④ Reading Input

教科書を開いて、聞いて書き取った語を生徒に確認させる。New Words, New Structuresを説明して、読みの練習をさせる。

⑤ Communicative Output

タスクを与えリスニングからスピーキングやライティングなどに結びつけた活動を行わせる。

⑥ Assignment

(2) 併用方式のねらい

① 内容理解に迫る

通常、新出語や文法事項を説明し、内容理解に入るが、ここでは未習の本文を先に聞かせる。

Krashen (1985)はインプット仮説で、「学習者の現時点での言語能力を少し超えた理解可能なインプット (Comprehensible Input)を十分に受けることによって、言語が習得される。」と述べている。教科書の本文は既習事項に新出語が数個、新出文型や文法も一つ加わった程度の内容で構成されており、最良のインプットといえる。生徒は既習事項から大まかな予測をたて全体を捉えることになる。

また、単語穴埋め式のプリントへの記入や New Words, New Structuresの説明により、細部の理解を

深めることができるのである。

② 音声による理解と文字による理解の統合化

単語穴埋め式のプリントに記入することで、生徒は目当てをもって音声聞くことになる。その後、教科書でその文字を見て「これがこのように聞こえるのだ、なるほど。」と実感できる。聞いた音声の文字をどこかの段階で確かめておくことは、理解の深化を図ることができ、記憶能率からみても効果的である。ただし、空欄にする語は既習語に限る。未知語は聞くことはもちろん、書くこともできないからである。この活動は

既習事項の復習と同時に、継続して行うことにより、リスニングに欠かせない語彙力を高める活動でもある。

③ 他技能との関連を図るタスク

タスクを使用したりリスニング活動は、生徒に活動の目的を与え、意識を焦点化して音声に向き合わせることもできる。内容理解にとどまらず、聞いたことについて必要なことを書き取ったり、自分の考えを発表したり、実際にコミュニケーションを図るためのタスクを与えることが望ましい。

III 指導の実際

I 検証授業

(1) Class: 1st grade (9 boys, 3 girls)

(2) Text: Program 4, Section 3, Sunshine English Course 1

(3) Aims of this lesson: (abridge)

(4) Class Allotments: (abridge)

(5) Aims of this period:

① To have the students listen to and grasp the contents of the text.

② To have the students get used to listening and talking on the phone.

(6) Teaching Procedure:

Procedure(Time)	Students' activities	Teachers'(JTE&ALT) guide	Remarks
Greeting Warm-up (5 min.)	Greet the teachers. Answer the questions.	Greets the students. Ask some questions.	Create a learning atmosphere
Review (5 min.)	Listen to the teachers' reading and remember the previous contents. Answer the teachers' questions.	Read the text on pp 22-24. Ask some questions about the contents.	The students close their textbooks to listen intensively.
Introduction (7 min.)	Listen to the teachers' reading. Say what they listened to.	Read the text on page 25 once. Ask the students what they could catch by listening, and write the answers on the board.	Read it in normal speed. Write the words to help the students guess easily.
	Listen to the teachers' reading.	Read the text on page 25 again.	
	Fill in the blanks of the worksheet with the words they listened to.	Hand out the worksheets. (The text with some blanks.)	Make blanks the words the students studied.
	Open their textbooks and check the words they filled in.	Let the students open their textbooks to page 25 and confirm the word spelling.	
New words and New material: Plural form	Listen to the teachers' explanation.	Introduce new words and the plural form.	Use flash cards and things (pens, books...)
Reading practice (7 min.)	Read the text after the teachers' reading. Read the text in pairs.	Model reading Help with pair activities	
	Close their textbooks and listen to the teachers' reading. Answer the questions.	Let the students close their textbooks and read the text again. Ask a few questions about the contents.	
Check of understanding (3 min.)			
Communicative activities (20 min.)	Pick up a task card and do the activities:	Give the students tasks ① or ②. JTE lets the students listen to a tape (A telephone message).	Let the students listen to the tape, as they need.

	①Listen to a telephone message and write it down. ②Talk on the phone with ALT. Show others their activities and listen to others.	ALT talks with the students. Let some students make presentations of their activities.	Encourage the students to talk with the ALT. Help the students' with presentations.
Conclusion (3 min.)	Fill in their self-evaluation cards Say good-bye	Give the students self-evaluation cards. Tell about the next class, and say good-bye.	

2 仮説の検証

(1) リスニングについて

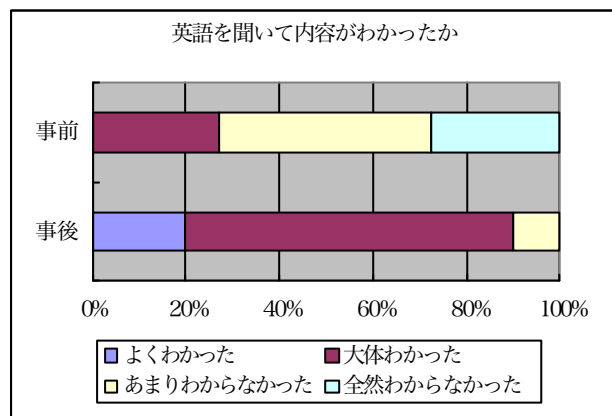


図2 生徒の自己評価

これは事前(5月)と事後(7月)に同様の展開をした授業直後に「授業の中で話されたり、読まれたりした英語を聞いて内容がわかりましたか。」という問いに対する生徒の自己評価である。事前には「わかった」と答えた生徒が約 25%だったのに対し、事後は約 90%に増えている。これは生徒の語彙や文法など、英語についての知識が増えたことに加え、生徒が英語独特の強勢やリズムに気をつけて聞き、聞き取れた語から推測して、内容を把握することができるようになったといえる。

実際、授業で未習の本文を ALT が読み、聞き取れた語をあげさせると、大方の内容語(内容理解に必要な名詞や動詞、熟語など)を聞き取ることができていた。英語の音声の特徴や聞き取るための技能を指導することにより、聞くことができるようになったと考える。

(2) 実践的コミュニケーション能力について

取り扱った教材が電話による対話文だったので、電話を使ったコミュニケーション活動を行った。

一つのグループには ALT に電話をかけ、誘ったり依頼したりするタスクを与えた。生徒が聞くだけでなく、発信する必要性を持たせ、創造的な活動ができるように、日時などは相談して決めさせるようにした。

表2 生徒と ALT の活動の一例

Task:電話でジェニファー先生を「図書館で英語を勉強しましょう。」と誘う。(S:生徒 A:ALT)

S: Hello. This is Tsukasa.
A: Oh, Tsukasa. How are you?
S: I'm fine, thank you. And you?
A: I'm good, thank you. Why are you calling?
S: Library. I study English.
A: Yes. We must study English. At the library?
S: Yes.
A: When?
S: ?
A: When? What day? Today?
S: Friday.
A: O.K. What time shall we study?
S: Seven.
A: Oh. Seven a.m.?
S: Yes.
A: That's too early. Can we study at ten o'clock?
S: Ten o'clock? O.K.
A: Well, thank you for calling. I'll see you on Friday.
S: See you again. Good-bye.



下線部は未習であるが、生徒は聞き取れた語と場面や文脈から推測しながら、ALT の話す概要を把握できていた。生徒の発話には文法的に足りない部分もあり、簡単な表現ではあるが、質問に適切に回答していた。この活動では他に“Say it again, please.”“I didn't hear you.”と言って、聞いたことを確認し会話をつなげようとする生徒の積極的な態度も見られた。

電話のメッセージを聞いてメモを取り、伝言するタスクを与えたもう一つのグループは、全てではなかつ

ものの、必要な部分を聞き取ることができていた。「数字を言っているけど何かな。」「フォーンナンバーと聞こえた。」「電話番号じゃない?」と、聞き取れた言葉から推測して内容をとらえていた。また、初対面の人に“Excuse me. Are you ~?”と声をかけ、伝言の相手であるかどうか確認する行動も見られた。

「聞くこと」を中心に、話したり書いたりといった他の領域と関連した活動を取り入れた指導を展開することにより、コミュニケーション能力が高められたと考える。

表3 授業後の生徒の感想

- マリサ先生やジェニファー先生たちの言うことがはっきりわかってとてもよかったです。
- 電話のかけ方が少しわかった。ジェニファー先生と電話で話しをして楽しかった。
- 電話のメッセージは何回か聞いてわかった。知らない人に英語で「すみません」と声をかけるのが緊張したけど、メッセージを伝えられてよかった。
- 発音や大きく言ったり小さく言ったり等、いろいろわかってよかった。これからも、聞いたり言ったりする時に気をつけるようにしたい。

き写すのではなく、聞いて考えや理解を深めていた。それに対して我々は、生徒が内容をとらえやすいように、話を聞かせながら要点をまとめ板書をする事が多い。生徒は聞き逃しても書き写せば事足りるのである。すぐに消える音声に対応し、言語内、言語外の知識を統合して意味をとらえさせるためには、このような日本の授業のスタイルを改善する必要がある。

興味深かったのはE S L (英語を母国語にしていない生徒が英語を学ぶためのクラス) の授業であった。通常の授業を離れ、2~4名程度のごく少人数の生徒で授業が行われていた。教師の提示する絵を見て質問に答えたり、状況を説明したりといった聞いたり話したりする活動が中心であった。“What is he doing now?” “He is walking.” “What was he doing yesterday?” “He was ~.”とパターンプラクティスの方法で、教師が繰り返し聞かせ、できるだけ多く生徒に発言させていた。ここでも、生徒が何かを書き写す作業はごくわずかであった。担当のジェニガ先生は「最初は、たくさん聞かせて音に慣れさせること。そして何度も繰り返すこと。言葉は使うことによって身に付くのです。」と話していた。英語指導の基本を再確認した。

IV 1か月基地内研修より

前期長期研修の一環として、5月の1か月間、基地内のカデナエレメンタリースクールで研修を受けた。当校で参観した授業について、リスニング指導の観点から紹介する。



参観した授業では、教師が学習内容を板書することは殆ど見られなかった。生徒は話されていることを書

V まとめと今後の課題

本研究では、リスニング指導の工夫を通して、実践的コミュニケーション能力の育成を目指した。

リスニングに必要な技能の指導と、授業展開の工夫により、生徒は、話されている事柄の概要や話し手の意向を聞き、発話へとつなげることができるようになった。また、聞くために必要な音声の特徴を知ること、話す時に、生徒がそれらに留意するようになったことも成果の一つといえる。

コミュニケーション能力としてのリスニング力を高めるには、やはり、できるだけたくさんの英語を聞かせ慣れさせる必要がある。同時に語彙や社会的・文化的知識を増やすための指導も不可欠である。限られた授業時間の中で、それらを継続指導していかなければならない。本研究を今後の指導に生かしながら、4技能を総合的に高める指導を目指し、更に工夫改善を図っていきたい。

<主な参考文献>

- 次重寛禧編 2001 『コミュニケーションを目指した英語の学習と指導』 鷹書房弓プレス
- 斎藤栄二著 1998 『英語授業成功への実践』 大修館書店
- 小池生夫監修 1994 『第二言語習得に基づく最新の英語教育』 大修館書店